

令和7年度 学校運営連絡協議会実施報告書

1 組織

- (1) 都立武蔵村山高等学校 学校運営連絡協議会（全日制課程）
- (2) 事務局の構成 主任教諭(総務主任兼務)=事務局長、総務部員3名 計4名
- (3) 内部委員の構成
校長、副校長、経営企画室長、総務主任、教務主任、生活指導主任（主幹教諭）、進路指導部主任、主幹教諭、1学年主任、2学年主任、3学年主任 計11名
- (4) 協議委員の構成（氏名の掲載も可）
市教育委員会、PTA会長、学校医、近隣中学校長、近隣小学校長、地域代表、警察署員、同窓会 計8名

2 令和7年度学校運営連絡協議会の概要

- (1) 学校運営連絡協議会（第1～3回）の開催日時、出席者、内容、その他
 - 第1回 令和7年6月26日（木）内部委員11名、協議委員5名
協議委員委嘱、委員紹介、評価委員の選出
学校経営計画、昨年度の学校運営連絡協議会の課題
本校の現状と課題等説明、意見交換
 - 第2回 令和7年11月27日（木）内部委員11名、協議委員7名
学校活動報告、学校評価項目について、学校評価アンケート実施のスケジュールについて
 - 第3回 令和8年2月13日（金）内部委員11名、協議委員6名
分掌・学年等の成果と課題について、学校評価アンケートの集計結果、意見交換、事務連絡
- (2) 評価委員会の開催日時、会場、出席者、内容、その他
 - 第1回 令和7年6月26日（木）内部委員1名、評価委員2名
学校評価の基本方針の確認、今年度の学校評価の実施に向けた検討
 - 第2回 令和8年2月13日（金）内部委員1名、評価委員2名
学校評価の結果分析・検証への指導・助言

3 学校運営連絡協議会による学校評価（学校評価報告）

- (1) 学校評価の観点
「学校への理解」「学校の意欲」「学校の実践」の観点で実施する。
- (2) アンケート調査の実施時期、方法、対象
 - ・実施時期 令和7年12月初旬から1月中旬まで
 - ・回答方法 生徒・保護者 Classi アンケート機能
教員・地域・住民 MicrosoftForms アンケート機能
 - ・対象

全校生徒	793名	回答	734名	(回収率	92.6%)
保護者	793名	回答	524名	(回収率	66.1%)
教職員	66名	回答	54名	(回収率	81.8%)
地域・住民		回答	46名	(回収率前年度	45%)
- (3) 主な評価項目
学校運営、学習指導、進路指導、生活指導、学校行事・部活動、体罰未然防止、働き方改革

(4) 評価結果の概要

今年度、アンケート回収率の向上を目標に掲げた。担任等が協力してくれた結果、生徒の回収率が92.6%になった。また、副校長等が粘り強く指導した結果、教職員の回収率も81.8%になった。昨年度と同様、「分からない」と回答した保護者と地域の方が一定数存在した。本校の魅力を発信するためにも、今まで以上にClassiやホームページ等を充実させていく必要がある。また、生徒と保護者の自由記述には、参考になる多くの御意見があり、今後の学校経営のヒントとなった。その反面、本校の取り組みに納得していない意見もある。今後も本校の取り組みを理解していただけるように努める必要がある。

- (5) 評価結果を受け、校長や学校全般への意見・提言
- ・近年の生徒は質が変わってきた。学ぶ意欲がなくなってきた。学ぶ意欲を向上させる取組を今まで以上に実施した方が良い。
 - ・規範意識の向上が難しくなってきた。保護者の意識も変わってきた。しかしながら、先生にはダメなものはダメと伝えてほしい。
 - ・令和8年度から自転車のルール（法律）が変わる。警察と連携して指導した方が良い。
 - ・依然として「分からない」の回答が多い。質問の精査をするべきである。地域住民の方々には、本当に「分からない」ものが多い。そのような質問をされても、「分からない」。

4 学校運営連絡協議会の成果と課題

- ・昨年度に引き続き、学校評価アンケートの結果や自由記述をとおして、生徒・保護者の率直な意見を知ることができた。すべての結果を全教職員で共有し、可能な限り速やかな生徒や保護者対応、事実確認に基づく改善に繋がった。
- ・令和7年度は、新たに生徒会や部活動が武蔵村山市と連携する機会が増えた。このことが、生徒の活躍の幅を広げると共に、地域のさらなる信頼や学校理解に繋がっていることが確認できた。
- ・学校評価アンケートを基に本協議会で学校運営の課題・改善策を協議する必要がある。今年度、学校評価アンケートの回収率が高くなった。特に、生徒と教職員の回収率が大幅に上がった。次年度は、精度の高いデータを基に、更なる改善策を講じていきたい。また、学校運営に反映できるよう、アンケート内容の精査を行う。

5 学校運営連絡協議会及び学校評価を活用した教育活動の改善事項（学校経営計画へ反映）

(1) 学校運営

生徒が主体的に実施できる学校行事、地域連携について、さらに質を高められるよう計画し、取り組む。また、生徒の大きな成果だけでなく、日々の取組を積極的に発信することで、本校生徒保護者をはじめ中学校や地域の期待にこたえられるようにする。

(2) 学習指導

家庭学習習慣を身に付けさせるため、学校の経営目標で「5教科すべての授業において、予習復習等課題を課す」ことを継続する。全教員共通認識のもと、成果に結びつく内容、分量、質を確保する。

(3) 特別活動

「生徒が自ら考え実行する」学校行事の実現に向け、今年度よりも更に多くの生徒が関わり、自己肯定感に繋がるよう指導する。

(4) 生活指導

いじめや授業妨害等の問題を未然に防止するため、生徒の道徳心、人権尊重の意識を高める指導を、ホームルームや集会をとおして実施する。また、生徒が未然防止に向け主体的に取り組む、その取組みを発信する機会を設定する。

(5) 進路指導

本校のキャリア教育に必要かつ効果的な進路行事を精選し、3年間の進路指導における位置づけと効果的な事前事後学習を実施する。

(6) 健康・安全

自転車事故の未然防止に向け、自身や他者の命を守るための「交通ルールやマナーの順守、ヘルメットの着用」について継続指導を行う。また、年度当初に全学年で教員によるヘルメットの確認を行う。